

高校1年 国語探究

「土佐日記」から「乃木坂46」まで ～日本文化における「他者に仮託する」ことを考え、 自分の意見をまとめる～

学校全体の取組

「主体的・対話的で深い学び」
の視点に基づく授業改善

単元のポイント

「土佐日記」における他者仮託の意味や効果を実感するため、歌謡曲の歌詞やミュージカル動画を鑑賞する。さまざまな作品や事象について自分の意見を記述し交換する中で、人称表現や「他者を演じる」効果について考え、我が国の伝統や文化について自分の意見を形成していく。

単元の流れ



1 時

古典作品の他者仮託
と現代歌謡曲の一人称
を取り上げ、興味関心
を高める。



2～6 時

- ① 歌謡曲の一人称がもたらす効果について考察し、日本文化において「他者に仮託する」表現を用いる意味を理解する。
- ② ミュージカル動画の視聴を通して「他者を演じる」ことの効果について考えを広げ、つながりを見出す。
- ③ 一連の授業を参考に、自身で考えたい問題を設定し、さまざまな角度から、他者仮託について、自分の感じたことを文章としてまとめる。



7・8 時

口頭で発表し、意見交換を行
う。人称表現の印象や「他者を
演じる」効果を確認し、土佐日
記においてなぜ紀貫之が女性に
仮託する方法をとったのかとい
うことに対する考察を深める。



- ① 古典作品と、生徒にとって身近な現代の歌謡曲等を、同じテーマで取り上げることによって、授業への興味関心を高める。
- ② さまざまなジャンルの作品を提示することにより感性を刺激し、対話を通して自らの考えを言語化する楽しさに気付かせる。
- ③ 自分で課題を設定し考察することで、考えを形成し表現する第一歩とする。

指導項目

※学習指導要領（平成30年告示）解説国語編に基づく

言語文化 (2)我が国の言語文化に関する事項

〔思考力・判断力・表現力等〕 A 読むこと

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つこと。

評価について

作成した論文の思考等の深さ・論理性を評価する。さまざまな作品や事象、論考を通して総合的に考察し、日本文化における「他者に仮託する」ことの意味について自身の考えを持つことができたかという点を、文章に表れるキーワード等で段階的に評価する。

目指す生徒の姿

- 自ら課題を発見し、粘り強く考えを深めることができる。

高校1年 国語探究

「土佐日記」から「乃木坂46」まで ～日本文化における「他者に仮託する」ことを考え、 自分の意見をまとめる～

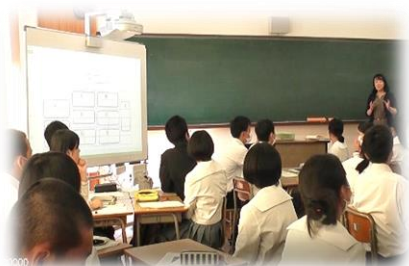
学校全体の取組

「主体的・対話的で深い学び」
の視点に基づく授業改善

授業の流れ

授業のポイント

「他者に仮託する」様々な手法や人称表現に触れ、自分自身で設定したテーマとそれに対する考察について、班の中で意見を出し合い発表することにより、我が国の伝統や文化について、自らの考えを広げたり深めたりする。



導入

これまでの学びを振り返ることで、「他者に仮託する」ことのバリエーションを確認する。



展開

- ① 日本文化における「他者に仮託する」ことの意味について、自分が考えた例をもとに、班の中で意見を出し合う。
- ② 共通する意見、異なる意見を集約する。
- ③ 班員の意見を取り入れながら自分の考えを深める。



終末

発表を取り入れながらまとめることにより、人称表現の印象等を通し、他者に仮託することの意味を確認し、土佐日記においてなぜ紀貫之が女性に仮託する方法をとったのかということに対する考察を深める。



指導項目

※学習指導要領（平成30年告示）解説国語編に基づく

言語文化 (2)我が国の言語文化に関する事項
〔思考力・判断力・表現力等〕 A 読むこと
オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つこと。

評価について

作成した論文の思考等の深さ・論理性を評価する。さまざまな作品や事象、論考を通して総合的に考察し、日本文化における「他者に仮託する」ことの意味について自身の考えを持つことができたかという点を、文章に表れるキーワード等で段階的に評価する。

目指す生徒の姿

○自ら課題を発見し、粘り強く考えを深めることができる。

- ① 古典作品と、生徒にとって身近な現代の歌謡曲等を、同じテーマで取り上げることで、授業への興味関心を高める。
- ② さまざまなジャンルの作品を提示することにより感性を刺激し、対話を通して自らの考えを言語化する楽しさに気付かせる。
- ③ 自分で課題を設定し考察することで、考えを形成し表現する第一歩とする。